

6/24

司会: 矢野

本倉 教員養成大学における管弦楽器による合奏授業
本倉 敬之

・ピアノで独奏曲が、ひけても、伴奏や室内楽では無意味

↓
音楽的コミュニケーション能力は、重要。

↓
合 奏

教員養成大学における管弦楽器の合奏授業は価値がある。

↓
方法

目的は、音楽の教師として必要な音楽に対する総合的理解を個々に得させる。合奏を完全させるのが目的ではない。

- 1. 基礎技術の習得
- 2. スコア・リーディング
- 3. 指揮
- 4. 指揮法の授業との連携
- 5. 鑑賞授業の関連

↓
問題点

- 1. 技術的制約
- 2. 時間的制約
- 3. 人数不足と楽器の偏りについて

結論

合奏体験を通じて感受性と表現力を養い、音楽に対する総合的な理解を深める。

① 質問

「楽器を習得するの？」

A. 幅広い知識が大切。

Q. 「音楽的コミュニケーションとは？」

A. 全員で一つの音楽をつくるために必要なもの。

Q. 「ピアノがひけるだけの音楽教師が現場にいるのには、なぜ問題か。」

A. 社会性がない。

先生→A. 人間関係など、深い意味の説明がうすい。

Q. 「具体的事例は？」

A. 書かれていない。

Q. 「指揮法の授業との関連とは？」「合奏と指揮法は、同じ？」

A. 一緒にやっていた。

Q. 「クラブとは？」「音楽科の生徒以外もきたの？」

A. サークルです。 きてます。

郡山 『心から歌う気持ちは育てることが出来る』 鈴木 渉

養護学校 → 表現活動 中心

- ①歌
- ②器楽
- ③リズム運動

①歌 … 子どもから豊かな表情を一番引き出す。

障害の種類や程度が違うために学習に差!!

②器楽合奏 … 子どものほとんどがリズムへの反応が鈍い。

(実践) 20数名の子どもたちに大太鼓の打ちでたたく。

③リズム運動 … 心と体を統一させて動きを作り、より豊かな表現活動

(実践) 体育館で 100名ほどの児童で20分間

結論

音楽とともに様々な能力をひとつでも多く
開花させることが大切!!

Q. 「子どもの年齢」

A. 小学校

Q. 「みんな知恵おくれ？」

A. ほとんどそうです。

Q. 「いやがる子は、いなかった？」

A. 書かれては、いないが、そういう子もいる。

Q. 「への働きかけの例は？」

A. ないです。

Q. 「集団でやっても、ある子を対象にしぼってる？」

A. その子によって好みがあるのでは？ 子どもに合わせた活動をさせている

Q. リズム運動(20分)でこの運動力全部するの？

A. Yes. 続けていくことに意義がある。カンパキにすることが目的ではない。

Q. 実際に、子どもが、変化した点は？

A. 全身にかがった。積極的になった。情緒面で変わった。

↓どういうこと？

- ・歌うことで落ちつく。
- ・しつけがかった。
- ・静かにいて話を聞いた。
- ・言葉の発達を促した。

実践報告の論文。

→ 実践の確認という論文もある。

Q. 「リズムへの反応の 鈍さの基準は？」

A. 考えてない。